

| 検体検査業務 | |
|--------|---|
| 1. | 基本的要件 |
| 1.1 | 病院情報システム（以下HISという）と検体検査システム（以下LISという）を接続し、迅速な電子カルテシステム運用をするものとする。また、LISの導入及びHISとの接続は、入院業務及び外来業務が遅滞なく導入できること。 |
| 1.2 | 検体検査結果は、HIS端末で確認できるものとする。 |
| 1.3 | 最低でも検体検査は10年間分保存、それ以上はバックアップサーバーに保存する。但し、LISに依存することなく、また情報セキュリティを担保した上でCSVファイル等で容易にデータが取り出せること。また、当院の電子カルテの保存期間が永年であることからそれに準じたシステムを構築すること。 |
| 1.4 | 検体検査システムは、業務に支障がない様に稼動すること。 |
| 1.5 | 全検体検査データは検査サーバで一元管理し有効利用を行なうことができること。 |
| 1.6 | 処理形態は、サーバ/クライアント方式で構築されたシステムであること。 |
| 1.7 | HIS側がダウンしても検査運用が停止しないシステムであること。（検査受付は、用手法での受付ができること。） |
| 1.8 | 将来に向けてのシステムの拡張性や柔軟性があること。（システム化対象業務の増加、自動分析機の追加、更新がシステム運用を停止させることなく容易におこなえる臨床検査システムであること。） |
| 1.9 | HISとの接続等については、応札業者の責任のもと、病院側の指示に従い行うこと。 |
| 1.10 | HISとの接続は、TCP/IPプロトコルによるソケット通信でのデータ連携ができること。 |
| 1.11 | HISとの接続は、HL-7の仕様にて行うことができること。 |
| 1.12 | 項目コードは臨床検査データ交換標準化協議会（MEDIS）に準拠すること。 |
| 1.13 | 検査サーバーは院内に設置し、外部との通信は行わないこととする。 |
| 1.14 | HISとの接続にあたり、市立福知山市民病院医療情報システム運用管理規定及び福知山市情報セキュリティポリシーを遵守すること。 |

| | |
|-------|--|
| 2. | システムソフトウェア |
| 2.1. | 受付等 |
| 2.1.1 | オーダーリングが停止した場合でも、用手法入力等で簡便に検査の受付、結果が返送できること。 |
| 2.1.2 | IDカード（磁気カード）のIDナンバーをキーにオーダー情報が取得できること。またはHIS端末でIDを読ませた時点でオーダーが送信された時にオーダー情報が取得できること。 |
| 2.2. | 検体到着確認について |
| 2.2.1 | 以下の業務を行うことによって到着確認ができること。 |
| 2.2.2 | バーコード対応分析機にて付属のバーコードスキャナーで到着確認ができること。 |
| 2.2.3 | クライアント本体に接続されているバーコードハンドスキャナーで到着確認ができること。 |
| 2.2.4 | 用手法受付時にも到着確認ができること。 |
| 2.2.5 | 到着確認後の修正や取消し情報は、HISへ送信できること。 |
| 2.2.6 | 検体番号の採番は採血管ごとに任意の連番を発生できること。また、その番号で業務できること。 |
| 2.2.7 | HISに対し到着確認済みの信号を材料毎に到着確認し、直ちに到着時間と併せて送信すること。 |
| 2.2.8 | 分析装置などのオンライン接続機器の機器更新に伴うオンラインソフトの作成はベンダーの責任において対応できること。 |
| 2.3. | 外注検査について |
| 2.3.1 | オンラインあるいは電子媒体等で依頼、結果の受渡しをおこなうことができること。 |
| 2.3.2 | 検査オーダーで入力された外注検査依頼情報がリアルタイムに取り込みできること。 |

| | |
|-------|---|
| 2.3.3 | データ交換は、臨床検査データ交換標準化協議会（MEDIS）の標準仕様により行なうこと。 |
| 2.3.4 | 外注検査データは、検査システムサーバを通して、電子化診療記録へ結果が転送できること。 |
| 2.4. | マスタファイル |
| 2.4.1 | マスタは現有システムとの互換性があること。 |
| 2.4.2 | マスタの世代管理ができること。 |

| | |
|-------|--|
| 3. | 移行すべきマスタおよびデータ |
| 3.1 | 移行すべきマスタおよびデータの概要を示したものであり、詳細については前受託者に問い合わせること |
| 3.2 | 移行対象となるマスタの概要は以下の通りである。 |
| 3.2.1 | 検査オーダー履歴 |
| 3.2.2 | 検査結果履歴 |
| 3.2.3 | 検査結果数値 |
| 3.2.4 | 契約期間中に受注した結果数値等のデータについては、契約期間終了以降であっても現行同様の仕様によりHISシステム等に取り込むこと、若しくは、次の受注業者に現行同様の仕様によりHISシステム等に取り込むことが出来る状態で移行データとして引き継ぐこととする。但し、診療業務に支障を生じさせてはならない。 |
| 3.2.5 | その他、各部門システムで保有しているマスタおよびデータ（移行の範囲、詳細内容については、部門責任者と協議の上、業務に支障のないように決めること） |
| 3.2.6 | 保有データには、文字情報のほかに、画像、レポートも含まれる |

| | |
|-------|---|
| 4. | ネットワーク |
| 4.1 | 部門システム用LAN接続は次のとおりとする。 |
| 4.1.1 | 工事は、部門ベンダー側での工事とする。 |
| 4.1.2 | HIS系LANへの接続にあたり、インターフェイス部分のハードウェア及び設計、構築費用、セキュリティ対策費用等については、部門ベンダー側とする。 |
| 4.1.3 | その場合、ネットワーク規格は、ハブ以降1000base-cat5e以上とし色は、部門毎に指定された色を使用すること。 |
| 4.1.4 | ネットワークアドレスの採番は、当院の採番方針に準じて行うこと。 |
| 4.1.5 | 構築されたネットワークは病院に帰属するものとする。 |

| | |
|-------|--|
| 5. | その他の要件 |
| 5.1 | 情報守秘に関連して、以下の要件を満たすこと。 |
| 5.1.1 | 契約者（受注者）は、本院情報管理システムの開発、導入、保守等の作業に携わる全ての作業（契約者が下請けする業者を含む）に市立福知山市民病院のセキュリティポリシーおよび以下に示すポリシーを理解させ、遵守し行動するよう管理すること。その具体的方法を提示すること。 |
| 5.1.2 | 当院情報管理システムに係るセキュリティ情報（システム設定、ネットワーク設定、利用者情報、セキュリティ管理区域入室、等に関するもので、電磁的記録及び印刷情報、口頭伝達情報を指す）については、守秘事項とする。 |
| 5.1.3 | 前項セキュリティ情報を利用して、本院情報管理システムを不正に使用することを禁ずる。 |
| 5.1.4 | 当院情報管理システムに係るプライバシー情報（患者及び職員に関するもので、電磁的記録及び印刷情報、口頭伝達情報を指す）については、守秘事項とする。 |
| 5.1.5 | 当院が特別に許可する場合を除き、守秘事項を病院外に持ち出すことを禁ずる。パソコン内部や記憶媒体での持ち出し、ネットワーク経由の転送（メールも含む）、あるいはネットワーク経由でダウンロード可能とすることも禁止する。また、口外することも禁止する。 |
| 5.1.6 | 調達する全てのハードウェアについて、契約期間中に機器を交換保守する場合、及び契約期間終了後に機器を撤去する場合には、記憶媒体上にあるデータを復元不可能な状態に消去すること。 |

| | |
|-------|--|
| 5.1.7 | 当院が特別に許可する場合を除き、当院情報ネットワークに、外部より持ち込んだ機器を接続すること、及び電話回線やインターネット（VPN）等を通じて外部から接続することを禁ずる。 |
| 5.1.8 | 当院が特別に許可した電話回線あるいはインターネット（VPN）経由のアクセス時に使用するアクセス認証にかかわる情報を他に漏らしてはならない。その情報は盗難や漏洩が起きることがないように管理すること。 |